

法人名	社会福祉法人なづな学園
施設・事業所名	なづな学園
取組名称	なづな まちかど ミュージアム

### 取組の目的や背景・内容など

今年度8回目を迎える事となった行事です

当初は、当なづな学園の生活介護支援利用者のアート作品を東山区渋谷通（東大路～大和大路）に、NPO法人フィールドミュージアム文化研究所と京都造形大学の学生参加で展開。市民の方や修道学区近辺の方々に見て頂くことで、社会への啓発を促して来ました。第7回を迎えた昨年からは、地域共生に向けた取り組みと言う事で、その在り方に変化を加えました。その内容は、次の通りです。

昨年度は、なづな学園が未認可から数えて60年が経ちました。自宅を開放して始まったこの事業を修道や貞教及び上新シ町の住民の皆さんは受け入れて下さり、現在まで支えて下さっています。その皆さんが高齢期を迎えられた現在、次の世代に向けてなづな学園は何をしていかななくてはならないのかを考え、より地域に密着した活動を強化していく事となりました。更には、支援を受けるだけではなく、一緒に街づくりに参加していくと言う事にも視点を置いた活動の強化に取り組んでおります。

大きな変更点

地域における福祉団体への呼びかけ

- ① 修道学区内の小松谷保育園の子供たちの作品展示
- ② 修道洛東園に入居されている方々の作品展示
- ③ より地域と言う事で、展示協力、作品出品大学を京都造形大学から東山区内の京都工芸大学に変更
- ④ 後援団体の追加。昨年度までは、修道自治連合会、修道学区社会福祉協議会、修道民生児童委員会の後援を受けておりましたが、今年度から加えて、東山区社会福祉協議会のお力を受ける事となりました。
- ⑤ 地域力の活用（ワークショップの開催）  
⇒ 区社協を通して（人材紹介）石鹸づくりのワークショップ開催  
お花の葉作りのワークショップ開催（京都みどりクラブ）
- ⑥ 東山区まちづくり支援事業（補助金対応）

### 参考写真



なづな学園の作品



小松谷保育園の作品

京都工芸美術大学の作品



小松谷保育園の作品



なづな学園前の掲示案内図



学園付近のカフェ



なづな学園の作品



学園付近の工芸ショップ



学園付近の和菓子店舗

## 取り組みを行って良かった点

- ① 作品依頼に当たり、保育園や大学等、日常触れ合う事のなかった機関との距離が近くなり様々なところで職員や学生との交流が出来るようになった
- ② 学園の作品だけではなく、保育園や大学生の作品を展示することで、特に保育園に関しては、保育園の行事に日程を合わせる事で行事が終わればまちかどアート展へと言う流れが出来た。
- ③ 自治連関係機関、学区婦人会、区及び学区社協の後援を得る事で、関係者の多数見学があり、職員との交流が盛んになっている。
- ④ 学生や他の団体に期間中、ワークショップを担当して頂く事で、利用者のみならず、地域の方々にアート以外での楽しみを提供出来るようになった。
- ⑤ 期間中、写真展を同時開催実施。昨年度は、なづな学園 60 年の歩み。今年度は、修道今昔物語と言ったテーマを決めて開催。例えば、修道小学校（現：東山総合支援学校）の昔と同じ場所から撮った写真を並べて、地域の方に楽しんで頂きました。

地域から支援を受けるばかりではなく、このように地域に向けて行事や情報を発信して行事で地域との交流が深まっていくものと考えます

現在は、行事だけではなく、町内会の会議での会場提供、地藏盆の会場提供、地域防災訓練への参加、学区夏祭りのステージ参加と模擬店出店、地域行事準備等の職員人的派遣・・・様々な形で参加していくようにしております。